

個への支援と授業改善による学力向上の取組

えりも町立えりも小学校

学 級 数 8

(校長 佐藤 裕哉)

I はじめに

本校は、学級数8（うち特別支援学級2）、児童数154名の学校である。平成26年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校、令和2年度からは地域指定の中核校として、近隣の指定校4校（笛舞小、えりも岬小、庶野小、えりも中）とともに、包括的な学校改善に向けて、取組を推進している。本校児童の学力は、全国学力・学習状況調査の結果において、ここ数年間、全国平均に届かない状況にあり、児童の学力向上が喫緊の課題となっている。そこで、今年度は「個への支援」と「授業改善」を両輪として、児童一人一人の学力向上へ取り組むこととした。

II 実践の概要

1 各種調査を基にした個への支援

(1) フォローアップタイム

児童一人一人の課題克服のため、学期末に「フォローアップタイム」という深化・補充の時間を設定している。全国学力・学習状況調査及びえりも町独自の学力調査の結果を分析し、児童一人一人の課題を明確にするとともに、課題に応じた個別学習を実施した。1つの学年にできる限り多くの教員を配置し、個別指導の充実に努めた。

(2) 学力向上改善プラン

学校全体の学力の底上げを図るため、「学力向上改善プラン」を基に、全校で組織的に取り組んだ。全国学力・学習状況調査及びえりも町独自の学力調査の結果を分析し、学習内容の理解が十分でない各学年の領域が明らかになった。そこで、次のように、①から③までの取組を2週間で1サイクルとして実施し、繰り返し取り組むことで、改善を図った。

①調査結果の分析に基づく、理解が十分でない領域等についてのミニテスト

②ミニテストの結果に応じた個別の補充学習

③補充学習の定着度についての確認テスト

2 協働的な学びの充実を目指した授業改善

(1) 「学び合い」を取り入れた授業の構築

他者と関わり合いながら学び続ける児童を目指し、研究テーマを「聴き合い、学び合い、高め合える子の育成～「なぜ」「どうして」が言える環境づくりを通して～」と設定した。

児童が学び合う場面を充実させることができるよう、「聴く」「考える」「伝える」の3つの場面に重点を置き、研究を推進した。

「聴く」場面においては、教員の役割と児童の姿の具体を明確にした。

「考える」場面においては、自分の考えと友だちの考えを比べるなど、児童が比較したり、分析したり、判断したりすることができるよう、教員が児童の考えを引き出す視点を明確にした。

「伝える」場面においては、児童が言葉や図、表などを用いて伝える際、どこまで分かっているのか、何が分からないのかを引き出すことや教科の用語を使用するなど、教員の指導の視点を明確にした。

以上の3つの場面に重点をおいた授業づくりを行い、7月の公開研究会では、参加者との協議の中で、児童の学びを深めるファシリテーションを充実させる必要があることなど、課題が明らかとなった。



【公開研究会（授業公開）の様子】

(2) 校内研修の部会構成

限られた時間を有効に活用し、教員自身が学び合い、高め合うために、校内研修を共同研究及び OJT 研修に分けて進めている。

① 共同研究

指導技術部と教材開発部の 2 つの部会に分かれ、それぞれの重点を設定し研究を進めた。

ア 指導技術部

児童が学び合う姿、発問、教師の役割、教科の特性に応じた振り返り、学んだことに気付く振り返り及び学ぶ姿に気付く振り返りについての研究

イ 教材開発部

教科の本質に迫り、深い学びを実現させる学習課題、社会に生きる学びを実現する学習課題、地域にある学習教材、人材の活用、基礎・基本を身に付ける単元構成、学び合いの場面を位置付けた単元・授業構成、ICT の効果的な活用についての研究

② OJT 研修

日常の実践に生かすことができる指導の技術や、教員として必要な知識、伝承されるべき経験等を得るための研修を行った。

(3) 授業改善プログラム

教員一人一人の授業改善への意識向上のため、重点週間を設定し、教務主任が学級担任と、週に 2 回程度、15～20 分、次の内容について、協議を行った。

- ・「えり小スタンダード（学習規律）」の取組状況と定着状況
- ・日常の授業における学び合いの実践の課題等

また、教務主任が提案授業を行ったり、学習指導案を学級担任と協働で作成したりするなど、校内で課題となっていることや研修部の方針を踏まえた、授業改善を推進することができた。

初任段階の教員が多い本校にとって、学級担任が、学習規律の徹底や発問等の指導技術について、教務主任と協議を行い授業改善に取り組んだことは効果的であった。

転入した教員や、初めて学び合いを重視した取組を行った教員による、校内研修での発言に変容が見られたことから、教務主任は授業改善プログラムの取組の成果を実感している。

聴く（インプット）

教師の役割 聴く：すぐに反応せず、児童の発言を待ち、聴く。

児童の聴く：最後まで聴く
話を受け止める（× Yesマン）
考えながら聴く



考える（比較・分析・判断）

自分の考えと比べる、友達の実践と比べる

Why, What, When, Who, Where, Which, How, How much

答えを導き出す、どこが同じ・違う、何が分かった・分からない……など



伝える（アウトプット）

○言葉、図、表、にして

○分かったこと、考えたことのみでなく、どこまで分かったか、どこが分からないか、
→分からないことも伝え合える関係性が基盤にある。→ひろう！

○学習の言葉を使うように！



【えりも小学校の「学び合い」】

Ⅲ 実践の成果（○）と課題（●）

- 各種調査を基にした個への支援及び協働的な学びの充実を目指した授業改善に取り組んだことにより、教員間で学力向上へ向けてチームで取り組む意識を高めることができた。
- 「聴く」「考える」「伝える」の場面に重点をおいた授業づくりを推進したことにより、「学び合い」を取り入れた授業を多く実践することができた。（前期児童アンケート「授業中、友だちと意見を出し合ったり一緒に考えたりしている」：肯定的に回答した児童の割合 90%）
- 校内研修の部会構成を工夫したり、授業改善プログラムの取組を進めたりしたことにより、教員の授業改善への意識向上を図ることができた。（前期教員アンケート「協働的な学びに向けた授業改善を図ることができた」：肯定的に回答した教員の割合 91%）
- 児童一人一人に対する支援の成果が不明確であることから、教員が短期間で児童の変容を把握することができるよう、検証方法を確立する必要がある。